

## 「城下地区重点エリア」

提言概要は、重点エリアを4街区に分け、ザ・シロヤマテラス津山別邸が開業した「街区A」以外の中長期的な展望での再整備構想。

▽第2ステップと位置付ける「街区C」は、ホテル跡地を津山城跡の一部復元とロケーションを生かしたシンボル的な城下広場として、森本慶三記念館（登録有形文化財）をビジタ

一センターとして健全化、「街区B」は、津山商工会館や金融機関の建物は他エリアへの移転を促し、観光センター機能を移設した「津山広域物産館」を整備、「街区D」は、歴史的機能強化を図るために、つやま自然のふるさと館などのミュージアムを一体的な拠点施設とするなどしていく。

市、策定。プランに反映

# 津山国際ホテル跡地活用策



## 市長に提言書を手渡す松田会長

津山市中心市街地活性化協議会（会長・松田欣也津山商工会議所会頭）は28日、津山国際ホテル跡地活用策などを盛り込んだ「城下地区まちづくりプラン重点エリア」の再整備に関する提言書を谷口圭三市長に提出した。市は年度末をめどに策定するホテル跡地の活用プランなどに反映させる方針。

# 活性化協議会 中心市街地 谷口市長に提言書

# シンボル的城下広場、物産館

浮田芳典運営委員長  
いわゆる、手渡した。  
谷口市長は「貴重な  
ひと市民所を訪れた松

田会長が「シロヤマテラスによって大型連休や夏も交流人口増の成果が出ており、他の街区も有効活用されることを願つてゐる」とあ  
具体的提言を生かしていけるよう、専門家とも協議をしながらじつかりと検討させていただきたい」と述べた。

## 食品口々削減重要

を高めるところの重要性を学んだ。  
月に1回、体操などをして、家庭での取り組みと呼びかけた。

注意点を実例を挙げて述べた。

る会館で食品ロスについての講話があり、住民20人が削減への意識がなくて困っている人

で、樂しく學ぶ」とが  
できた。」

8月まで  
勝央町内の  
15店舗で開かれる。

場産業建設部内の同実  
行委事務局 (☎③831)

供。期間中、複数の店舗で食べ歩くと抽選で景品が当たるスタンプラリーを実施する。

31日(火)～  
スイーツまつり

供。期間中、複数の店舗で食べ歩くと抽選で景品が当たるスタンプラリーを実施する。

り過ぎない」と考へる一を挙げ、「日頃から意識して生活する」とが大切」とユーモアを交え話した。

(67) 「総社市」が講師を務め、「日本での年間食品廃棄物の量は約2842万トンで、そのうち、まだ食べられるのに捨てられている量は約646万トンもある」と指摘。「メーカーを

を行っている江戸味の大山寿老松尾地区「柰来(ナツメイ)」。サロント活動の一環。県から派遣の三宅直生岡山環境整備委員会長。

を高めねば」の重要性

る会館で食品ロスについての講話があり、住民20人が削減への意識

# 食品口才

A black and white photograph capturing a group of approximately ten people seated in rows, facing towards the left side of the frame. In the center-left foreground, a person stands, gesturing with their hands as if leading a discussion or presentation. The individuals seated are dressed in a variety of attire, including what looks like a uniform or professional clothing. The background features a wall with several framed pictures or informational charts, suggesting an educational or institutional environment. The lighting is somewhat dim, creating a focused atmosphere on the speaker.